



平成30年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年8月10日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長 (氏名) 矢立 実
兼IR室長

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第3四半期の業績(平成29年10月1日～平成30年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	3,098	△6.1	△5	—	△4	—	△28	—
29年9月期第3四半期	3,297	4.9	108	—	110	—	83	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第3四半期	△2.02	—
29年9月期第3四半期	5.92	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年9月期第3四半期	1,753	1,162	66.3	82.13
29年9月期	1,810	1,226	67.8	86.65

(参考)自己資本 30年9月期第3四半期 1,162百万円 29年9月期 1,226百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	0.00	—	2.50	2.50
30年9月期	—	0.00	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

業績予想の策定に伴い、その内容等を勘案し配当予想を決定いたしました。

3. 平成30年9月期の業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,869	△8.3	△79	—	△77	—	△106	—	△7.52

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため予想の開示は行っておりませんが、現時点における入手可能な情報や予測に基づき、予想値を策定いたしましたので、公表することといたしました。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期3Q	14,436,600 株	29年9月期	14,436,600 株
② 期末自己株式数	30年9月期3Q	278,800 株	29年9月期	278,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期3Q	14,157,800 株	29年9月期3Q	14,157,800 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間の売上高は3,098,223千円(前年同四半期比6.1%減)、営業損失は5,949千円(前年同四半期は営業利益108,969千円)、経常損失は4,812千円(前年同四半期は経常利益110,000千円)、四半期純損失は28,618千円(前年同四半期は四半期純利益83,813千円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当社は、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

商品につきましては、消費者にとって価値のある商品づくりを目指し、①豆腐、豆乳、おから等を使用した「茂蔵オリジナル商品」、②それ以外の厳選された「定番商品」、③協力工場等からの「本日のお買い得品」の3つに分類し、この中でも特に茂蔵でしか購入することのできない「茂蔵オリジナル商品」を開発・強化してまいります。

当第3四半期におきましては、「茂蔵オリジナル商品」を開発・販売することで顧客数の増加に努めました。また、店舗におきましては、「三代目茂蔵」ブランドの認知度向上を推し進めることによる新規顧客の獲得と既存顧客のリピート率向上を目的とし、豆腐専門店としての認知度をより高めるため、4店舗の既存店舗においてリニューアル改装を行いました。

これらより、1商品あたり買上単価は前年同四半期比104.6%となったことが貢献し、1店舗平均の顧客単価は同102.4%となりました。しかしながら、「茂蔵オリジナル商品」の見直しや強化及び店舗のリニューアル改装による顧客数の増加には、時間がかかると考えており、1店舗平均の顧客数は前年同四半期比92.8%となりました。なお、出店につきましては、当社のオリジナル商品である豆腐・豆乳・おからを中心とした専門店として、既存業態を4店舗出店しました。

上記のことから、売上高は前年同四半期比3.5%減少しました。また、適正な在庫数を見直し、今後、使用する見込みがないと判断した資材・包材等27,305千円を売上原価に計上したことにより、売上総利益率は同1.2ポイント減少となりました。販管費につきましては、パート従業員の時給上昇などにより人件費が前年同四半期比9.8%増となったこと等が要因となり、販管費率は前年同四半期と比較して2.6ポイント上昇し、営業利益率は前年同四半期の6.3%から3.8ポイント減少し2.5%となりました。

以上の結果、小売事業の売上高は2,639,326千円(前年同四半期比3.5%減)、セグメント利益(営業利益)は65,949千円(前年同四半期比61.4%減)となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は458,896千円(前年同四半期比18.3%減)、セグメント利益(営業利益)は30,140千円(前年同四半期比2.7%減)となりました。

なお、当第3四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第3四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	55	4	5	54
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	150	1	6	145
合計		205	5	11	199

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して56,635千円減少し1,753,801千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少19,096千円、商品の減少34,152千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して7,377千円増加し591,003千円となりました。主な要因は、買掛金の増加28,764千円、未払金の増加5,014千円及び未払法人税等の減少27,890千円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して64,013千円減少し1,162,798千円となりました。これは四半期純損失28,618千円の計上と配当金35,394千円の支払により利益剰余金が64,013千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による影響が大きく、予測が困難なため通期業績予想の開示は行っておりませんが、現時点における入手可能な情報や予測に基づき、業績予想の開示が可能と判断いたしました。

当第3四半期累計期間の直営店舗における売上高は前年同四半期比で96.5%となりました。第4四半期会計期間の直営店舗の売上高につきましては、新規顧客の獲得と既存顧客のリピート率を向上させるべく対策を講じております。しかし、天候等の外部変動要因の厳しさを考慮し、直近の実績に基づいて策定いたしました。

営業費用につきましては、当第3四半期累計期間の実績を前提に第4四半期会計期間分を見積もり、利益予想を策定いたしました。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	584,365	565,268
売掛金	124,567	123,897
商品	88,154	54,001
貯蔵品	1,169	1,379
その他	41,470	50,297
貸倒引当金	△50	△50
流動資産合計	839,677	794,794
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	109,210	103,254
構築物(純額)	8,310	7,410
工具、器具及び備品(純額)	20,116	18,842
土地	562,970	562,970
その他(純額)	4,356	7,111
有形固定資産合計	704,964	699,590
無形固定資産	15,096	11,915
投資その他の資産		
敷金及び保証金	179,256	179,588
その他	71,661	68,120
貸倒引当金	△219	△208
投資その他の資産合計	250,699	247,501
固定資産合計	970,760	959,006
資産合計	1,810,437	1,753,801
負債の部		
流動負債		
買掛金	366,375	395,140
未払金	126,953	131,967
未払費用	42,204	46,000
未払法人税等	36,745	8,855
債務保証損失引当金	3,050	—
その他	7,129	7,672
流動負債合計	582,459	589,636
固定負債	1,166	1,366
負債合計	583,625	591,003
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	147,109	83,096
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,226,660	1,162,647
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	150	150
評価・換算差額等	150	150
純資産合計	1,226,811	1,162,798
負債純資産合計	1,810,437	1,753,801

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	3,297,931	3,098,223
売上原価	2,332,959	2,223,926
売上総利益	964,971	874,297
販売費及び一般管理費	856,002	880,247
営業利益又は営業損失(△)	108,969	△5,949
営業外収益		
受取利息	121	115
未払配当金除斥益	456	441
受取保険金	300	—
その他	231	588
営業外収益合計	1,109	1,146
営業外費用		
その他	79	9
営業外費用合計	79	9
経常利益又は経常損失(△)	110,000	△4,812
特別利益		
固定資産売却益	—	99
債務保証損失引当金戻入額	2,250	1,525
特別利益合計	2,250	1,624
特別損失		
固定資産売却損	0	—
減損損失	—	1,451
固定資産除却損	95	206
店舗閉鎖損失	1,309	8,675
特別損失合計	1,404	10,333
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	110,845	△13,521
法人税、住民税及び事業税	27,032	15,097
法人税等合計	27,032	15,097
四半期純利益又は四半期純損失(△)	83,813	△28,618

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成28年10月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,735,997	561,933	3,297,931	—	3,297,931
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,735,997	561,933	3,297,931	—	3,297,931
セグメント利益	171,049	30,982	202,031	△93,061	108,969

(注) 1. セグメント損益の調整額△93,061千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成29年10月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,639,326	458,896	3,098,223	—	3,098,223
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,639,326	458,896	3,098,223	—	3,098,223
セグメント利益又は損失(△)	65,949	30,140	96,090	△102,039	△5,949

(注) 1. セグメント損益の調整額△102,039千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、1,451千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。